

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館1・2(北札内ふれあい館1)		
所在地	中川郡幕別町札内新北町77-5		
自己評価作成日	令和 4 年11 月2 日	評価結果市町村受理日	令和5 年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoyoCd=0174700807-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoyoCd=0174700807-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で制限された生活が続きますが、感染対策をしてお散歩や近所の庭のお花を見学させてもらったり、一日のうち楽しかったと思える時間を職員と共有出来るよう心掛けています。ホーム内は四季を感じられるような環境作りに務め、四季の花を飾ったり、折り紙や塗り絵で創作した作品の展示や写真などを飾り、楽しめるように工夫をしています。リビングでは好きなテレビを観たり、ゲームをしたりしてそれぞれが好きなことを意欲的に出来るようにしています。又、安全に生き生きと暮らしていただくために毎日の健康管理や運動を行っています。入浴は天然モール温泉を使用し、「体の芯から温まる」と喜ばれています。職員は理念である「優しい心、寄り添う心でその人らしさを大切にケア」を心掛けて明るい笑顔で接しています。又、年2回の防災避難訓練を実施しております。併設するシニアマンションの方々とのおふれあいし、ご家族様とも連携を図り、健康管理などの情報共有を行い、コロナで職員も自粛し健康管理に気を付けて安心できる施設運営を行っています。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年12月13日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は幕別町中心の北西に位置し、近隣には法人の運営するシニアマンションやグループホームがあり、裏手には公園を要する、静かな住宅地に立地している。法人は多くの福祉施設等を運営し、各種委員会(身体拘束廃止、虐待防止・事故等)を設置し、日頃から職員研修、災害対策などで事業所同士が連携している。事業所共用空間は明るく清潔感があり、季節感ある飾り付けや行事写真が掲示され、利用者がソファで寛いだり、穏やかに過ごしている。事業所内にモール温泉の入浴施設があり、利用者は毎回ゆつたりと温泉を楽しみ、体調の回復や健康増進に役立っている。また災害時における断水の際、温泉活用が期待されている。壁には全職員による質の高いケア実践や利用者の生活向上に繋がる新たな事業所理念が掲示されている。コロナ禍により地域住民との交流やボランティア訪問などは自粛しているが、コロナの蔓延状況をみながら利用者が地域とつながれる支援を目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。事業所独自の理念を作り、職員は理念を共有し、日々実践に努めている。	事業所理念は目立つ箇所に掲示し、毎朝のミーティング時等で唱和し、ケアに反映させている。会議ではホーム長と職員が話し合い、現状に即した、実践可能な理念に作り替えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は「地域町内会」に加入し、町内会行事やゴミ拾い清掃等に参加し交流図っている。防災訓練では地域の住民の協力を得ている。	町内会に加入し、コロナ禍以前には積極的に行事に参加したり秋祭り等で交流していたが、現在は感染予防の為、自粛となり、利用者が散歩時に挨拶したり、広報紙受領の際に話す程度となっている。	コロナ禍以前に盛んであった地域との交流ができなくなっている。地域密着型サービス事業所として、利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられる方策の検討を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ感染で施設の行事などは自粛しておりますが、コロナ感染が終息したら地域の方々との交流」を深める予定でいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催し運営状況や行事報告、事故報告、防災訓練などを報告して意見交換をし運営に反映出来るように努めている。同時に身体拘束適正化委員会も行われている。	年6回開催の運営推進会議は書面会議で行っている。利用者入居状況、活動・事故報告等を書面にまとめ、通信と共に会議メンバーに発送し、メンバーからの意見、要望を運営やサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し、運営上の疑問等には積極的に相談しケアの向上に努めている。	介護保険等の行政担当者とは入居状況や新規利用、認定更新、制度等の情報交換を行うなど協力関係を築いている。生活保護受給利用者の暮らしや通院状況は担当ケースワーカーに定期的に報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修において報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。	事業所内で定期的に開催している「身体拘束適正化委員会」では事例検討や日々のケアの振り返りを行い、不適切がないか話し合っている。職員相互の意識の向上と共通理解を深め拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修において報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。			

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っているが、制度上困難な事項が多く、活用されていない。今後必要に応じ対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の凍結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧して頂き、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行う。解約時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。ご意見箱を設置し、意見を受けている。家族の来訪時に常に話しやすい雰囲気作りに努め意見や要望を聞き入れるようにしている。	日頃から利用者、家族の思いや要望等を聞き入れている。家族には電話や手紙で利用者の生活状況を知らせ、来訪時での意見や要望に全職員で共有し、迅速な対応を目指している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部へ上げていく体制で反映している。又、職員から個別に相談や要望を聞く機会をつくれるよう心がけている。	管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりに配慮し、意見や提案、気づきを把握する機会を設けている。事業所理念の見直し提案やコロナ感染予防のアイデアを職員全体で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている。又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員の研修を実施。全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりや相互評価事業により評価を受け、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をして頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分に来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならないよう訪問をさせていただき、又月一回のお便り等で利用者の現状報告親密な関係を築く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、親戚と時々電話をして会話をされる支援をしている。	入居以前に居住していた、隣接するシニアハウス居住者と挨拶できるよう付近を散歩したり、利用者の友人、知人、親戚等、馴染の関係が途切れないよう、電話や手紙などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでも生活を多くしお互いに支えあえる環境作りに努めている。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極めるように努め、困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	職員は利用者の日常生活での話から要望や意向の把握に努めている。入浴時や夜勤の時など個別で話せる機会を利用して、生活歴や暮らしの希望などを聞き取り、職員間で共有して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの家具、陶器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力を發揮してもらえるように努めている。又、外部からのマッサージも取り入れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が6か月毎に作成している。利用者や家族の同意を得ている。状態変化が生じた場合はその都度見直しをしている。	本人、家族の要望等を取り入れ、より良く暮らすための課題やケアを関係者と話し合い、毎月、確認しながら、半年に一回、計画を見直している。退院時等状況に変化があれば都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内会行事参加、ふれあい便りの配布等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応している。又医療連携をしている医療機関との連携を密にしている。受診結果は家族に報告し、受診記録に記載し全職員で共有している。	入居時にかかりつけ医や希望する病院を確認し、受診ができるよう支援している。協力医による定期的な往診、24時間対応の訪問看護、訪問歯科診療、訪問マッサージ等との連携のもと適切な医療が受けられるよう支援している。	

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている、又看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ態勢を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い、説明をしてお互いの方針を共有し支援に取り組むよう努めている。ターミナルケアの準備をしている。	入居時に利用者と家族に重度化した場合や終末期のあり方について説明し同意を得ている。協力医や訪問看護師との24時間体制が整っており、事業所のできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し、法人全体で対策を行っている。各施設で年二回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。隣接しているシニアマンションとの協力体制を進めている。	消防署の協力のもと、年2回の防災訓練を実施している。法人では災害に備えて自家発電機を準備している。事業所では3日分の食料、飲料水等の備蓄品を備えている。大雪に備えて除雪作業を委託している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉遣いには十分に気をつけた対応をしている。	個人情報の取り扱いに関し、入居時に利用者や家族に同意を得ている。排泄時には人格を尊重し、さりげない言葉かけに配慮している。プライバシーを損ねないよう事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をするには個々の能力に見合った選択の場を設け希望が叶うよう働きかけている。時々、ご家族の協力もお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事ではなく、週に一度は利用者の希望に応じて献立をしている。又個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。	法人の栄養士がメニューを作成し、事業所に食材が届いている。職員と利用者が一緒になって準備や片付けなどを行っている。自由メニューの日には利用者の希望を取り入れたり、誕生日食を作ったりして支援をしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても個々にチェックし確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後一人一人本人の能力に合わせて支援を行っている。義歯洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している、又本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハパン、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表等により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導による自立排泄を促している。下着や衛生用品の使用は利用者の状態に合わせて使い分けし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している。又個々の身体に応じ運動をし健康状態を保つようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調などに配慮しながら、利用者の希望等を尊重し安心して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。天然モール温泉を利用している。	天然モール温泉での週2回以上の入浴が可能で、ゆったりと時間をかけての入浴は好評である。拒否する利用者には希望する時間帯や曜日、対応する職員の希望を聞いて、本人が気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等に応じ休息、安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医との相談による支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活ができるよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためないよう、このような状況でも玄関先での日向ぼっこや散歩などで気分転換が図れるように支援している。	コロナ禍以前は外食やドライブなど定期的な行事を行っていたが、利用者全員での外出は自粛している。利用者の気分転換のために感染予防対策を取りながら個別で近隣の食堂やコンビニに行くなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いについては基本的に個人が管理することとしているが、個々の能力に応じて金銭管理の困難な場合はホームで管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じていつでも連絡可能な支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、いつも清潔にし、採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地の良い共用空間づくりに努めている。又、折り紙等の作品も展示している。	共用空間は採光が十分入り明るく、壁面には季節感を感じさせる飾り付けや写真、利用者の折り紙等の作品が飾られるなど居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、それぞれ好きな場所で過ごせるよう支援している。又、会話やビデオを楽しめるよう支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んだり、家族の写真が飾られたりとこれまでの生活と変化がないよう配慮し居心地良く暮らせるよう支援している。	利用者はテレビや仏壇、家族の写真など馴染みのものや使い慣れた椅子などを居室に持ち込み居心地よく過ごしている。職員は飾り付けを手伝ったり、整理整頓の支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活をするためできるだけ個々の能力を生かし自立した生活が送れるよう支援している。		